

20260730_【閑話休題】挑戦するとすれば

夏休みも2週間が過ぎました。

生徒のみなさんがどんなふうにご覧になっているのか、終業式の日にご覧した内容をどのくらい覚えていてくださっているか気になるところです。

終業式の話の中で、苦手なことにもう一度「挑戦」してみるという話をしましたが、実はもう少し掘り下げて話したかったことが二つありました。

一つ目は、「目の前に平坦な道と登り坂があるなら、迷わず登り坂を行きなさい」です。当然、道や坂はたとえですが、簡単なことと困難なことがあるなら、あえて困難な方法を選びなさいということ。

この言葉は、私が考えたわけではありません。敬愛する作家である故伊集院静さんが、そのエッセイ集の中で述べられていたことです。

何かに挑戦をしようとするとき、その方法はさまざまで、どうしても簡単な方法、安易な方法を選びがちです。でも、たどり着く方法がいくつかあるなら、すこし難しいと思う方法をとってみてはどうでしょうか。その難しい方法こそ登り坂で、それを上った先には頂上があって、頂上からの景色は素晴らしいものであるように、困難なことから得られるものは、より多くてより大きいと思うのです。

しかし、そんな考えばかりしていると、疲れたり、息詰まったりすることもあります。そこで、もう一つの伝えたいことに続きます。

二つ目は、「逃げるなら、思い切り逃げなさい」です。

挑戦すること、困難に立ち向かうことは大切ですが、どんなに頑張っても、自分の力だけではどうしようもないこと、どんなに努力しついても先が見えないときも出てくるでしょう。そんなときは、そのことから逃げる、そのことを避けることも大切な選択肢の一つです。

でも、少し逃げるくらいでは、逃げ切れないかもしれません。そのことに関わらないくらいに思い切り逃げるのが大切です。

その後は、そのままにしておくのもよし、体制を整えて再挑戦するのもよいですが、一先ず、自分の視界に入らないくらい思い切り逃げましょう。そんな時には中途半端はいけません。

『苦手なことにもう一度「挑戦」してみる』と言っても、いろいろな挑戦の仕方があると思うのです。

今の自分に合った方法で挑戦してほしいと思います。当然、挑戦しなす、調整しないという考え方もあります。